



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第81号

2010.10.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」
の名前をつかっています。

もくじ

お知らせ

- ーカワシンジュガイとアブラボテを展示
- ーテレビ放送のお知らせ

活動報告

- ー霧ヶ谷湿原 秋のいきもの観察会
- ー霧ヶ谷湿原の植生調査 秋

観察会案内

- ーキノコの観察会
- ーサツキマス保全の試み

お知らせ

● カワシンジュガイとアブラボテを展示しています

タナゴの仲間であるアブラボテはカワシンジュガイに産卵します。今回芸北の川に生息するカワシンジュガイから産まれたアブラボテを、高原の自然館で展示しています。じっくり観察できるチャンスですのでぜひご来館ください。

● テレビ放送のお知らせ

9月26日に開催された八幡湿原自然再生シンポジウムの現地説明会がRCCの取材を受け、次のとおり放送される予定です。ぜひご覧ください。

- ・放送日：10月3日（日）22：54～
- ・放映内容：RCC ラブグリーンスタイル

観 察 会 報 告

●霧ヶ谷湿原 秋のいきもの観察会

開催日時 :2010年9月12日(日)9:30

講師 : 岩見潤治・和田秀次

猛暑のニュースが続く中、すでに暑さとは無縁の八幡高原に22名の参加者が集いました。講師は夏の観察会に続き、和田先生と岩見先生です。高原の自然館前で、注意事項を確認した後、歩いて出発しました。湿原にたどりつくまでにも、満開のマツムシソウやそこにやってくる昆虫、草原に休むアカトンボなど、観察対象は盛りだくさんです。霧ヶ谷湿原の手前にある水口谷湿原では、ゴマナ、タンナトリカブトなど、秋の花が咲いています。ヨシの茎で休息するシュレーゲルアオガエルも見られました。

水口谷を抜けて霧ヶ谷の再生事業地にたどり着くと、カラコギカエデのトンネルが迎えてくれます。プロペラ状の実を付けていますが、少し数が少ないようです。足下はピンクのミゾソバと青いツユクサが彩ります。そのトンネルを抜けると、木道の始まりです。遠目には夏に比べて色褪せたように見える霧ヶ谷ですが、ゴマナやオタカラコウが点々と咲いています。最初のパネルでは、「導水路を使って水を行き渡らせる」という、再生事業の方法について説明していただきました。パネルのそば、湿原の中央を流れる河川を岩見先生がひとすくいすると、ムカシトンボのヤゴやサワガニなど、小さな生物が色々入っています。細い木道を進んでいくと、アキアカネ、ノシメトンボ、ミヤマアカネなど、アカトンボの仲間が次々に見られます。再生した水路にはタカハヤが泳ぎ、フトヒルムシロが葉を広げていました。ぐると一周し、道路沿いのパネルのところでは、霧ヶ谷の変遷と再生の全体像、実験地について説明していただき、復路をたどりました。お昼過ぎまでの観察会でしたが、動物・植物ともに色々なものを観察することができ、また、湿原の再生も実感できる観察会でした。[しらかわかつのぶ]



出発してすぐ、マツムシソウには色々な虫がやってきていた。



水口谷湿原では「散策マップ」を使って植物を確認。



パネルを示しながらの導水方法についての説明を聞く。



改修された水路から岩見先生が落ち葉をすくい上げた。



タカハヤがたくさん見られた溜まり。



落ち葉の中にいた、小さなサワガニ。

【みなさんの印象に残った物】

「いろいろな生き物が関係を持って生息していること。特に動くもの（昆虫）は面白いですね。」「水路に昆虫が住み始めた事。」「湿原のちがいがよくわかりました。（再生部分と元の部分）」「カヤネズミの巣を見たこと。」「事業の内容や動物の名前の由来」「ネズミの巣を初めて見ました。」「昨年も観察会に参加しましたが、今年は植生が変化しており、毎年楽しめる観察会であると感じました。来年も参加したいです。」「オオヘリカメムシの美臭」「湿地をすくって水生昆虫を観察したこと」「自然石の水路」「昆虫の話」「オオヘリカメムシのにおい」「マルハバチの幼虫」「ミヤマアカネ」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「気候もちょうど良く、ゆっくり歩けたので楽しく活動できました。お疲れさまでした。」「木道が完成して自然の観察が常に出るようになって良かった。」「とても勉強になりました。」「たのしかった」「楽しい雰囲気よかったです。」「楽しかったです。」「初めて来てみて、大変勉強になった。」「植物だけでなく、昆虫のことも理解することが大切だと思いました。」「気持ちのよい時間でした。ありがとうございました。」「久しぶりの観察会、忘れていた植物の名前を思い出し楽しい一日でした。」「楽しい時間でした。」「涼しく秋風のにおいを感じた。」「じっくり湿原を観察できてよかったです。」「時間がすぎるのが早かった。仲間と歩くと楽しい。」



霧ヶ谷湿原で見つけたカヤネズミの巣。

観 察 会 報 告

●霧ヶ谷湿原の植生調査 秋

日時 :2010年9月26日(日) 13:30

講師 :大竹邦暁・佐久間智子・白川勝信・和田秀次

団体での参加も含め、19人での調査になりました。講師はお馴染みの和田さん、大竹さん、佐久間さん、そして白川の4人です。現地へ移動する前に、高原の自然館前で植生調査の方法について説明しました。不明な点への質問もあり、参加者のやる気が伺えました。現地では、はじめにパネルを使って、自然再生事業の概要について説明しました。各班で調査道具を持ち、夏の調査記録を分配しました。この記録に従って、調査地へと移動していきます。霧ヶ谷湿原の木道には番号が振ってあるので、簡単に場所を特定できます。今回は初めて参加される方が多かったですのですが、各班とも順調に進みました。調査区が進むにつれて、植物の名前だけでなく「被度」や「群度」などの評価も参加者の方自身でできるようになり、手際が良くなっていきました。しかし、慣れた頃には予定していた地点の調査を終えてしまいました。早く終わった班は、それぞれの班の講師に連れられて植物観察をして、ツリフネソウやアキグミの実を見つけたようです。すべての班が調査を終えて戻ってきたところで、和田さんから、八幡湿原自然再生事業のきっかけとなった、自然史研究会による実験について説明していただきました。最後に、各班の状況を紹介していただき、感想を言い合いました。「わずか1平方メートルの中に、たくさんの植物があつて驚いた」という方が多かったです。また、講師の佐久間さんからは、夏の調査時とずいぶん植物が変わったという指摘がありました。大人数の調査でしたが、木道があるおかげで、湿原を傷めずに植生調査を体験できました。[しらかわかつのぶ]



秋を迎えた霧ヶ谷湿原。



各班に別れて調査を進める。



木道の上から植生高や被度・群度を測る。



小さな植物も見逃さないようによく観察。



夏には植生が疎だった場所も、草に覆われていた。



全ての調査が終わった後、全員で報告し合った。

【みなさんの印象に残った物】

「湿原の広さ（初めて湿原に来ましたが、尾崎谷湿原との違いに驚きました。）」「人間の営みというものは、試行錯誤の繰り返しであって、いじらしいものであるということ。」「植物の名前がわかった事。」「アケボノソウの多いのに感動でした。」「広さ」「1m区画の中で20種類程。多くの植物があった。」「湿原再生への努力と熱意」「自然のままに再生していくことは大変困難ではあるが、その方向性は、これからの環境を考えるともっとも重要だと思う。」「調査は初めての経験で大変楽しく思いました。」「湿原が復活する様子が見られたこと。」「草の名前を沢山おぼえたこと。」「湿原の再生される様子。」「アメリカネナシカズラ」「植物の生き残るための多様な戦略」「植物の多様性」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「植生調査自体も初めてでしたが、楽しかったです。」「その中であって、自己の目標を定め、営々と湿原生物、その他の生存に力を尽くしている人々（今日のリーダー）がいることへの感銘。」「調べるということは、じみな仕事であり、永く続けて行く事が大切だと思いました。」「初めての体験でしたが、大変楽しかったです。」「小さなスペースにたくさんの植物が生きていることに感動！それらの名前をよくご存知だと講師にも感心しました。」「植物の名前がわかる書物等あった方が良い。今度くる時自分自身で実感できるから」「楽しかった」「非常に勉強になった。」「また経験したいと考えます。」「久しぶりに調査に参加して、楽しむことができました。」「小さい花がせいっぱい咲いていることに感心した。」「初めてで面白く感じました。」「6月からの変化におどろいた」「植物のしたたかさ」と人間の自然への大きな影響力を考える必要」「わずか1平方メートルの中に実にいろいろな植物があることがわかり、とても興味深かったです。来年の春、今日調べた所がどうなっているのか、楽しみです。」

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳

作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

● キノコ観察会

開催日時：2010年10月3日(日) 9:30

集合場所：聖湖キャンプ場駐車場(国道191線からキャンプ場入り口より入り右側の最初の駐車場)

講師：川上嘉章

準備：基本セット、キノコを入れるかご(ビニールの袋よりも、通気性の良いかごが良い)

定員数：30名

参加費：一般=300円 / 賛助会員=100円

正会員・中学生以下=無料

秋といえば、キノコ/キノコの名前や生態を専門家の先生と一緒に学びましょう。名前由来のおもしろさや、どんな暮らしをしているのを知ればキノコの楽しさが倍増します。今回は聖湖キャンプ場にて開催します。歩きやすい服装でご参加ください。

● サツキマス保全の試み

開催日時：2010年10月11日(月・祝) 9:30

集合場所：八幡高原センター

講師：内藤順一

準備：基本セット、双眼鏡

定員数：30名

参加費：一般=300円 / 賛助会員=100円

正会員・中学生以下=無料

※気象状況により座学だけの観察会となることもあります。

聖湖を海とみわたた「降湖型サツキマス」が柴木川を遡上し八幡地域に産卵にやってきました。サツキマスの生態や生息を学んだあと現地へ移動し、データを取るため、サツキマスの計測をします。その後、上流部の産卵場所へ移動させるという試みを行います。寒くなる時期です。暖かくしてお越しください。



八幡湿原自然再生シンポジウムへ参加しました。すっかりおなじみになった霧ヶ谷湿原は、大勢の方が知恵を出し、話し合ったからこそ完成したものだと思えて知りました。また、他の地域の事例を聞くことができたのも、よい機会でした。何より自然を大切にしていこうとする参加者のみなさまとお会いできたのが、イベントの醍醐味です。“何度も訪れたい場所 霧ヶ谷湿原”を今後ともよろしくお願ひします。(この)

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしています)

高原の自然館(こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://shizenkan.info/>

staff@shizenkan.info